

自動車産業における RISE WITH SAP の位置づけ

グローバル DX を推進してきた当社の考え方をご紹介します。

グローバルトランスフォーメーションにおけるクラウドソリューションの役割

経済の減速リスクやグローバル化の変容リスクはあるものの、日本企業のグローバルトランスフォーメーションは今後も継続される見通しです。その中核となるのがデータドリブン経営の実現になります。つまり、グローバル規模で End to End でデータの整流化を実現し、ビジネスコンテキスト(例えばロジスティクスと会計の繋がり等)を担保し、連結管理会計やドリルダウン分析・生成 AI を用いた対話型分析をシミュレーションに活用する、ということになります。これらの実現には ERP が不可欠となり Fit-to-Standard が大前提となります。

他方、毎年のように現れる変化、新たなテクノロジー、新たなサービス、新たな秩序、新たなルールに俊敏に対応し DX ユースケースを実現すべく日本企業はビジネスプラットフォームの強化を迫られています。

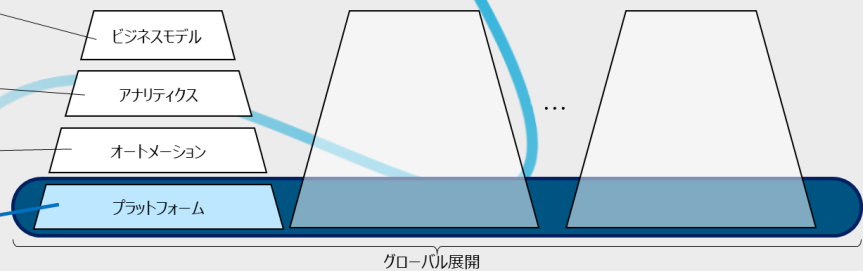
主なDXユースケース(製造業)

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • パーソナライズド商品やサービスの提供 (オプション選択型製品の提供、顧客嗜好データに基づく情報要約・情報提供、商品レコメンデーション型クロスセル、没入型・体験型サービスの提供等) • 使用者・使用商品とのコネクティッド化/IoT化 (使用者・使用商品の状態をタイムリーに把握し、使用者に意味のある提案へ) • 商品・サービスの購入前後の過程、つまり、関心・検索・検討・購買・使用・問い合わせ、共有のライフサイクル全体を俯瞰したサービスの提供 • 抵抗感のない課金モデルの提供 (プレミアムモデル、フリーモデル、サブスクリプション) | <ul style="list-style-type: none"> • 管理: 年度計画と実績見込みの対比およびドリルダウン、管理連結 • CRM: 最終顧客へのアクセス・最終顧客データの蓄積・最終顧客理解、オムニチャネル化 • 設計: デジタルモデリング・モックアップ、統合BOM化 • 販売: 需要予測自動化、受注出荷指示業務の自動化、3PL自動連携 • 生産: プロセス自動化、スケジューリング最適化・デジタルツインによるシミュレーション、生産類型(ETO, DTO, ATO, CTO, MTS等)への対応 • 保全: 設備のリアルタイムモニタリングと予兆検知・保全 | <ul style="list-style-type: none"> • サプライチェーン: グローバルサプライチェーンのボトルネックの可視化 • 調達: サプライヤーコラボレーション、グローバル集中購買 • 品質: 内部統一品質基準の制定 • 会計: グローバル勘定科目統一、複数会計基準対応、消込等の自動化、貸倒予測、減損予測、シェアードサービス化、キャッシュフロー予測、グローバルリーディング • 人事: グローバル共通のキャリアパスプログラムの制定、グローバル組織対応、従業員のリモートワーク対応 • マスタ: グローバルマスタデータガバナンスの強化 • IT: 先進ソリューション設計実装能力 (業績を左右) |
|--|--|---|

この動きは日本企業だけではなく、外資系企業においても、変化に対する俊敏性・拡張性を高めるためにシステムアーキテクチャの複雑さやサイロ状態を取り除き、変化を機会に変換するためのプラットフォームの実現を進めています。

主なDXの狙い(製造業)

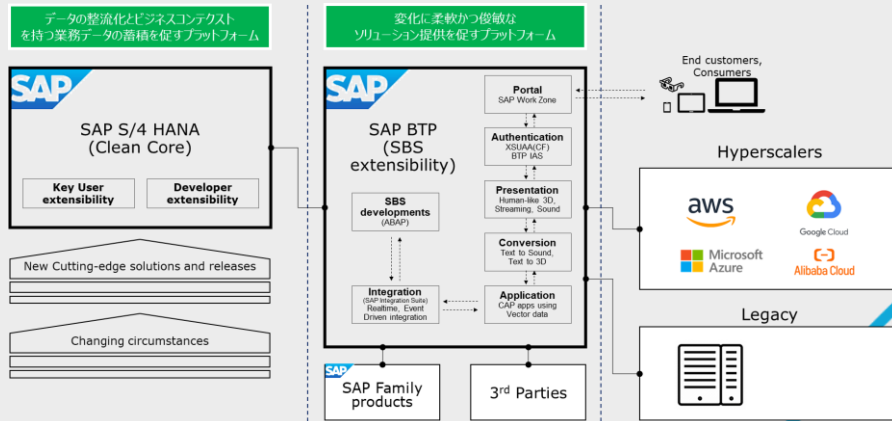
- 新たなサービス(顧客理解に基づく利便性・LTVに寄与するデジタルサービス)、新たな製品(コネクティッド製品等)
- 新たなマーケット(新成長セグメント、デジタルスペース等)
- 年計・実績見込差異の特定
- バリューチェーンのボトルネックの特定
- 意思決定支援情報(Gen AI)の取得
- 脱ペーパー、脱手動処理
- リアルタイム、イベントドリブン連携
- **変化への柔軟性・拡張性の担保**
- **規模の経済(スケールメリット)・範囲の経済(シナジー)**
- **世界共通ルール、プロセスの実装(ガバナンス)**



実は SAP ソリューションの世界には、こうしたプラットフォームの実現に適したアーキテクチャが存在します。Fit-to-Standard およびチェンジマネジメントを推進することで実現する、データの整流化を担保するための OOTB/クリーンコア型のプラットフォーム(標準的な ERP)、そして外部環境変化への俊敏性・拡張性を高めるべく拡張を是とするプラットフォーム(SAP BTP)、これら 2 つが疎結合で連携されたビジネスプラットフォームがそれに該当します。海外では SAP S/4 HANA Cloud Public Edition と SAP BTP の組み合わせによりグローバル

展開を目指す大企業も現れています。SAP ソリューションではないものの、同様の考え方は金融産業のビジネスプラットフォームにおいても見られ、アーキテクチャの主流的な考え方といえます。

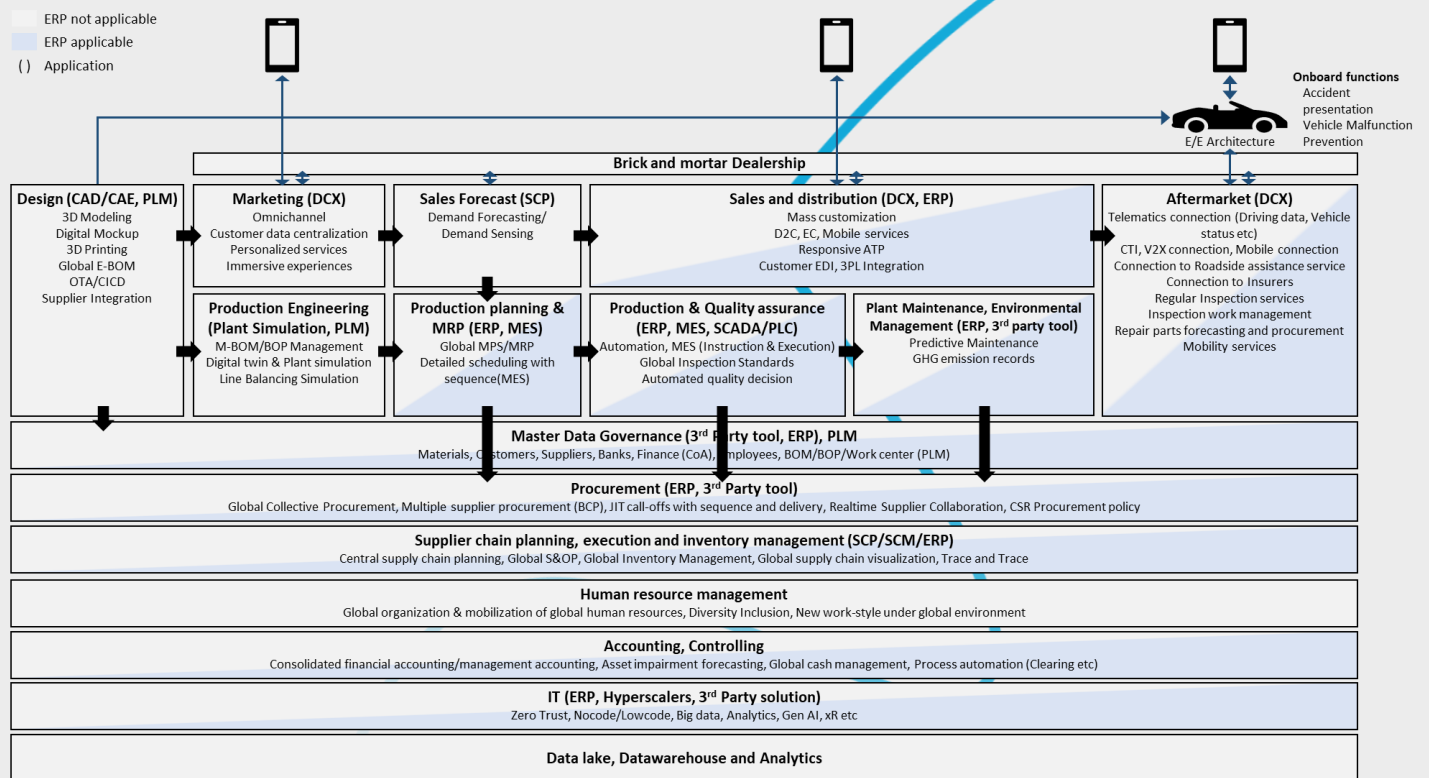
クラウドは高い拡張性と可用性を持った分散データベースであり、ビッグデータの確保に向いています。またオペレーション面においては SaaS 時代 —すなわち IT エンジニアに業務要件を伝達し何かを開発してもらう時代から、全社的なデータの整流化のためにビジネスユーザーが標準に合わせてプロセスを変えていく時代— へと向かっており、クラウドソリューションはまさにグローバルトランスフォーメーションの中核を支えているといえます。



自動車部品メーカーへの SAP S/4 HANA Cloud の導入

キャップジェミニでは SAP 社と協力しながら自動車産業向けソリューションである [SAP S/4HANA® Cloud for automotive suppliers](#) を開発し 2020 年より提供しております。その最大の特徴は自動車産業で最も頻りに利用される SAP S/4 HANA プロセスを中心としたアクセラレーターであり、かつ、産業向け BTP アプリケーションを提供している点にあります。ERP のみで自動車関連企業の全てのプロセスをカバーすることは不可能です。SAP S/4HANA® Cloud for automotive suppliers は産業独特の業務が多い自動車産業においても、ERP が最も得意とする適用範囲を定め、かつ、冒頭で述べたデータの整流化の役目を果たしつつ、同時に拡張性の担保を可能とします。

自動車産業向け概略アプリケーションマップ(例)と ERP の適用範囲



このコンセプトに従い SAP S/4HANA Cloud の導入を決めたのが、独・自動車部品サプライヤー、[エルリング・クリンガー社](#)（[英語サイトのご案内](#)）です。エルリング・クリンガー社では日本子会社において SAP S/4HANA® Cloud for automotive suppliers を用いたパイロットプロジェクトを開始しています。

日本企業においては、各部門の業務水準を大きく引き上げてきた部門最適化が、全社的なデータドリブン経営に必要な部門横断的なデータの整流化の障害となっているところが散見されます。高度なチェンジマネジメントが必要になりますが、中期経営計画の、部門横断的なデータ整流化の担保と環境変化に柔軟な拡張性の担

保を同時に実現する SAP S/4 HANA Cloud + SAP BTP の導入を早急に進めていく必要があると考えています。

デジタルトランスフォーメーションパートナーとして、クライアント企業の SAP グローバル展開を、当社の優位性でもある「グローバルワンチーム」でご支援いたします。

キャップジェミニについて

キャップジェミニは、テクノロジーの力を活用し、クライアントのパートナーとして、企業のビジネス変革・業務改革を支援するグローバルリーダーです。「テクノロジーの力で人々のエネルギーを解放し、インクルーシブで持続可能な未来を実現する」というパーパスを共有し、事業活動に取り組んでいます。キャップジェミニ・グループは、世界 50 か国以上、約 36 万人の使命感あふれる多様性に富んだチームメンバーから成る組織です。55 年にわたり培ってきた高い専門性と業界への知見を活かし、クラウド・データ・AI・コネクティビティ・ソフトウェア・エンジニアリング・プラットフォームなど、急速に進化する革新的な技術を強みとしています。戦略・設計から運用まで幅広いビジネスニーズに対応し、クライアントからの厚い信頼をいただいています。2022 年のグループの売上は 220 億ユーロです。

Get the Future You Want - 望む未来を手に入れよう |

<https://www.capgemini.com/jp-jp/>



This document contains information that may be privileged or confidential and is the property of the Capgemini Group.